

# 龍谷大学 校友会報



〔校友総数 225,000名〕  
 2025(令和7)年3月15日  
 第100号  
 発行=龍谷大学校友会  
 編集=校友会広報部会  
<https://www.ryukoku.ac.jp>  
 京都市伏見区深草塚本町 67  
 龍谷大学内  
 校友会事務局  
 TEL075-645-2015 FAX075-645-2017

龍谷賞授与式、全国支部長会、Who's who、ホームカミングデー、校友音楽祭	2面
入澤学長法話	3面
特集「龍大川柳」	4・5面
学部同窓会、サークル、OBOG会、支部の活動	6面
支部の活動、コラム、校友の著書	7面
仏教に学ぶ、校友のお店	8面

## Ryukoku Univ. Alumni News No.100

校友会報100号記念

### 「龍大川柳」大賞・優秀賞発表

校友会報は、一九六七(昭和42)年12月15日に創刊されました。

創刊時は、文学部・短期大学部同窓会と経済学部同窓

### 深草キャンパスの新棟、名称決定!

25年4月より、深草キャンパス内に3つの新棟と上空通路が新設され、社会学部が移転してきます。

3つの新棟の名称は、建学の精神に満ちたキャンパスになることを願って命名されました。

#### ■「灯炬館」(2号館北側)

「灯炬」とは、思い悩み暗闇の状態にある私を思い常に照らしてください。「大いなる仏の灯、仏の願い」のこ



灯炬館



間思館



慧光館



朋友館 (7月竣工)



結連橋 (南北接続上空通路)

会の2学部同窓会だけでしたが、現在は9学部同窓会に、支部は海外、職域支部を合わせて53支部となり、校友会の広報は校友会報に留まらず、

HPやSNSなどで様々な情報発信をしています。今回、創刊100号を迎えるにあたり、卒業生、現役学生にあらためて「龍大」をテーマに川柳を募集しました。卒業生、現役学生それぞれの目線の「龍大川柳」特集ページは、4面5面をご覧ください。

12月21日、龍谷大学校友会静岡県支部が設立されました。「第一部」の設立総会では、支部の設立に至るまでの経緯紹介に始まり、議案は肅々と承認され、土山和雅支部長(63年文卒)率いる「静岡県支部」が誕生いたしました。

「第二部」は、入澤学長から「社会変革を起こす大学へ」「連携そして『共創』」を尊重し合える関係「お互いがお互いを高め合う関係」であってほしいとの願いが込められています。

「結連橋(南北接続上空通路)」深草キャンパスの北工

「第一部」の設立総会では、支部の設立に至るまでの経緯紹介に始まり、議案は肅々と承認され、土山和雅支部長(63年文卒)率いる「静岡県支部」が誕生いたしました。

「第二部」は、入澤学長から「社会変革を起こす大学へ」「連携そして『共創』」を尊重し合える関係「お互いがお互いを高め合う関係」であってほしいとの願いが込められています。

「結連橋(南北接続上空通路)」深草キャンパスの北工



龍谷大学校友会静岡県支部 設立記念大会&全国校友大会in静岡

と題してご講演をいただきまし。現役学生の取組みに感心するとともに、発展し続けている龍谷大学を誇らしく感じるお話をしました。また、奈良葉師寺管主故高田好胤師(第9回龍谷賞)の長女でエッセイストの高田都耶子さんから「つながること」と題して、ご縁の大切さをご講演いただきました。高田好胤師の言

葉は、いつの時代に聞いてもいろいろな立場の人に響くお言葉で、あらためて偉大な卒業生のお一人だと感じました。「第三部」は、「全国校友大会in静岡」が開催され、東海地域の岐阜県、三重県、愛知県支部からも参加くださった。ご当地の銘菓・銘酒が揃い大いに盛り上がりしました。この「第三部」では、静岡県支部の歌「今、ここに」が発表されました。校友会の歴史で、「支部の歌」ができたのは初めてのこと。作詞作曲は、静岡県支部設立に尽力くださった南荘宏さん(79年文院了)。南荘さんが代表・常任指揮を務められる「静岡混声合唱団「TERA」」から総勢42名が駆けつけてくださり、「静岡県支部の歌」を参加者全員で合唱しました。

霊峰富士を後にして前に見えるは太平洋ここに集う龍谷に学びし同窓生今 時代を超えてつながる ああ われら 龍谷大学校友会静岡県支部 私たちは、時代は違えど、「龍谷大学で学んだ」というご縁は変わらぬ、そのご縁がこの場なのだと感じた瞬間でした。

「慧光」とは、私たちの闇を破ってください。この「慧光」に照らされて、自身の闇を破り、大きく成長してほしいという願いが込められています。

「朋友」とは友や仲間を指す言葉です。サークルの枠を越えて「お互いがお互いを

「結連橋(南北接続上空通路)」深草キャンパスの北工

「第一部」の設立総会では、支部の設立に至るまでの経緯紹介に始まり、議案は肅々と承認され、土山和雅支部長(63年文卒)率いる「静岡県支部」が誕生いたしました。

「第二部」は、入澤学長から「社会変革を起こす大学へ」「連携そして『共創』」を尊重し合える関係「お互いがお互いを高め合う関係」であってほしいとの願いが込められています。

「結連橋(南北接続上空通路)」深草キャンパスの北工

「結連橋(南北接続上空通路)」深草キャンパスの北工

お祝いに駆けつけてくださった二胡奏者の姜曉艶さんの演奏もあり、音楽と東海4県の美味しいもの、そして静岡県支部の役員のみならず、

さまのおもてなしの心が見事にこめられた「全国校友大会in静岡」は終始、笑顔に包まれた和やかな会となりました。

龍谷大学次期学長に 安藤 徹 教授  
 一任期 2025年4月～2029年3月31日

【最終学歴】  
 1997年3月 名古屋大学大学院 文学研究科博士後期課程修了  
 【出身地】 岐阜県  
 【生年月日】 1968年1月11日  
 【専門分野】  
 平安朝文学・物語社会学  
 【職歴】  
 2000年4月 龍谷大学文学部専任講師  
 2002年4月 龍谷大学文学部助教授  
 2007年4月 龍谷大学文学部准教授  
 2010年4月 龍谷大学文学部教授  
 2013年4月 龍谷大学図書館長  
 2017年4月 龍谷大学文学部長  
 2021年4月 龍谷大学副学長  
 2021年4月 龍谷大学龍谷ミュージアム館長  
 2025年4月 龍谷大学学長就任予定

#### 「コンビニ証明書発行サービス」開始

龍谷大学では、新たな証明書発行サービスを開始しました。すべての証明書は、24時間オンラインで申請可能となり、日本全国のコンビニエンスストア(セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン)で受け取りが可能です。

【コンビニ発行、デジタル証明書に対応している証明書】  
 [和文のみ] 在学証明書、卒業(修了)見込証明書、卒業(修了)証明書※、学業成績証明書※、健康診断証明書  
 ※2000年3月卒業(修了)生から対応  
 ※ご利用方法その他詳細についてはこちらから▶

#### 2025年度校友会の主な事業予定

5月21日(水)	校友会賞贈呈式(深草キャンパス:顕真館)
6月7日(土)	校友総会(深草キャンパス)
9月28日(日)	校友音楽祭(深草キャンパス:成就館)
10月25日(土)	ホームカミングデー(瀬田キャンパス)
11月2日(日)	ホームカミングデー(深草キャンパス)
11月2日(日)	龍谷賞贈呈式(深草キャンパス:顕真館)

### 龍谷ミュージアム

#### 春季企画展「大谷探検隊 吉川小一郎 一探究と忍耐 その人間像に迫る」

明治時代、西本願寺の鏡如新門(大谷光瑞、後の第22世鏡如宗主)が、仏教の伝播を探るため、一宗派の事業として組織した大谷探検隊。その隊員の一人・吉川小一郎(第3次隊)が、探検地である中国や中央アジアから家族宛に送った多くの書簡や古写真、そして自身の回顧音源(すべて初公開)を中心に、大谷探検隊の実像と吉川小一郎の人間像に迫ります。

2025.4.19-6.22

大谷探検隊  
 KOICHIRO YOSHIKAWA  
 龍谷ミュージアム  
 RYUKOKU MUSEUM

◆会 期:2025年4月19日(土)～6月22日(日)  
 ◆休館日:月曜日(ただし、5月5日(月)開館)、5月7日(水)  
 ◆開館時間:10:00～17:00(5月2日、23日は～20:00)  
 ※最終入館受付は閉館30分前まで  
 ◆入館料:一般1,100円  
 ◆問い合わせ:龍谷大学 龍谷ミュージアム  
 TEL:075-351-2500  
<https://museum.ryukoku.ac.jp/>

#### 龍谷ミュージアム 無料で優待券

期日:2025年6月22日(日)まで  
 (同伴者1名を含め 無料でご入館いただけます)

# 第35回 龍谷賞受賞者

## 龍谷賞

滑稽噺・芝居噺・人情



吉田 忠史さん (85年法卒)

日本の芸術文化の発展に寄与する日本最大の芸術祭典20年度「第75回文化庁芸術祭賞大衆芸能部門」で大賞を受賞され、24年に芸歴40周年を迎えられました。

滑稽噺・芝居噺・人情など幅広い高座は人への優しさで温もりにあふれ、芸の研鑽を積み重ねておられます。

## 龍谷奨励賞

地歌・箏曲、平曲奏者 (芸名：菊矢雄司)



小川 雄司さん (99年経済卒)

長年にわたり、校友会本部、学部同窓会、地域支部の事業へ積極的に参加され、本学および京都大学をはじめとする複数の大学で特別講義などを続けておられます。

演奏家として、日本の伝統音楽を継承し、その普及・啓発に貢献する業績などから、「23年度文化庁芸術選奨新人賞」を受賞されました。豊かな音楽表現と確かな技量は、

## 龍谷奨励賞

バレエ・ボール選手



福留 慧美さん (20年経済卒)

地歌・箏曲を中心とした伝統音楽のみならず、現代邦楽やオペラ、和太鼓等、幅広いジャンルでの活動にも注目されており、国内外で日本文化の魅力を広められております。地歌発祥の地である上方を拠点とし、地歌舞台やテレビ出演なども通じて、伝統音楽の未来を担う貴重な存在として期待されます。

龍谷大学体育局女子バレーボール部主将として、現レボロで活躍されました。粘り強いディフェンスが評価され、22年に日本代表に初選出されました。24年「FIVBバレーボールネーションズリーグ2024」においてレギュラーとして準優勝に貢献。第33回パリオニックにレギュラーとして出場し、在学生、教職員、校友にはもちろん、多くの人々に感動と勇気を与えてくれました。24年9月からは、イタリア・セリエA女子ミラノに所属され、今後、ロス五輪を見据え、ますますのご活躍が期待されます。

社会に貢献し、顕著な業績をあげた校友会員(卒業生)に対し、「龍谷賞」「龍谷奨励賞」と、校友会員に限定せず顕著な活動をされた方へ「龍谷特別賞」を贈っています。

# 第39回全国支部長会開催

20歳代、30歳代の支部会員も参加して開催。11月2日、記録的大雨の中、国内外あわせて34支部72名が参加、雨を吹き飛ばすくらい意見交換、交流の場となりました。今回は全体会に続き6つのテーマを設定した分科会があり、その一つの「20代、30代が考える校



受賞者のみなさん



また、終了後、懇親会場(22号館)への道中「ミニキャンパスツアー」を実施し、完成間近な深草キャンパス内3つの新棟「灯炬館」「慧光館」「聞思館」と南北接続上空通路「結連橋」を見ながら変わりにゆく龍谷大学の姿を感じつつ、彩り豊かな食事を楽しみ、さらに交流を深めることができました。

## ホームカミングデー

10月26日、瀬田キャンパス、11月3日、深草キャンパスでホームカミングデーを開催しました。今年も卒業生やご家族、同伴者に千円分の学生模擬店利用券を配布し、大好評でした。

10月6日、校友音楽祭を初めて深草キャンパス成就館で開催しました。深草キャンパスでの開催ということで、近隣の砂川小学校から金管バンド、藤森中学校の吹奏楽部の生徒さんたちにも初めて出演いただきました。



# 校友音楽祭 in 深草

地域の方々と一緒に盛り上がりました

今年も「お子様広場」を担当してくれた野外活動部の学生さんたちが手作りしてくれた「金色のサンバ棒」のおかげで、観客の皆さまも一緒に会場が一体となってエンディングを迎えました。小学3年生から70代を超えたメンバーが「音楽」というキーワードで繋がった大変有意義な時間となりました。

## 校友 Who's Who

一般社団法人シーズ代表

# 坂口久美子さん

(93年経済卒)



プロフィール 京都府出身。大学卒業後にモデルとなり、その後ウォーキングスクールを開業。現在は一般社団法人シーズの代表を務める。

# 大学での体験、モデルという仕事の体験から繋がるこれからの取組み

大学時代の思い出 私は数学が好きで、文系なら経済学部で、また自宅から通学できる大学を志望し、指定校推薦で龍谷大学に入学しました。高校では3年間ラグビー部のマネージャーとして部活に追われる毎日を過ごしていました。大学生活では自由な時間が欲しくて毎日のようにアルバイトをしながら英会話を学び、お金が

貯まると旅行に行くという学生時代でした。そんな大学生活で特に印象に残っているのが必須科目の仏教学。大学に入ったばかりの私にとって鍋島先生の仏教学はとても分かりやすく、興味深いご講義でした。人生に影響するようなお話で、さらに学びを深めたく、深草から大宮に鍋島先生のお話を聞きに通っていました。

就職活動とモデルの仕事 就職活動では当初、システムエンジニアを考えていましたが、途中で方向転換。アパレル系を目指し最終選考まで残りましたがこれも縁がなく叶わず。そんなときに龍大ラグビー部の留学生からモデルの仕事の話を知り、レッスンを5ヶ月受けてオーディションを受けました。その結果、歯の矯正を条件に合格するこ

とができました。今思うと、この方向転換がなかったら、今の仕事には繋がっていません。人生の大きな分岐点だったのかなと思います。モデルの仕事は大変でした。ショーの仕事が99パーセントでした。ウオーキングのレッスンはじめ身体を酷使する毎日。ダイエットから内臓もやられ、腰痛肩凝りから整体に通うこともしばしば。しかも周りは皆ライバルというきびしい日々でした。

今後の取組み 経験と共に年齢を重ねた今、つくづく人は健康でないとキレイはついてこないということを実感します。そのために正しい姿勢や歩き方、靴の選び方を知って欲しいと思います。今まで何万人もの歩き方を見てきて自分の中に膨大な統計ができています。歩き方の癖や靴の減り方などから体型が分かります。健康に過ごすためには脚が衰えな



取り組んでいます。



マンダリンオーケストラはOBOG会と学生の共演がすっかり定番の素晴らしい演奏。そして、45名の大所帯の藤森中学校吹奏楽部の演奏は、調和のとれた見事な演奏でした。トリは、龍谷大学吹奏楽部OBOG会&現役生。毎年このことから庄巻の演奏。恒例の全体演奏は「マ



オープニングはラポールOB会の熱成された合唱から始まりました。2番手の砂川小学校は、3～5年生の8名の生徒さんによる金管バンド。かわいいう音色ながらも堂々とした演奏でした。続いては、23年度全国コンクールで日本一を受賞した龍谷大学吹奏楽部のサクソフォン四重奏の細やかな技術力のある素晴らしい演奏。マンダリンオーケストラはOBOG会と学生の共演がすっかり定番の素晴らしい演奏。そして、45名の大所帯の藤森中学校吹奏楽部の演奏は、調和のとれた見事な演奏でした。トリは、龍谷大学吹奏楽部OBOG会&現役生。毎年このことから庄巻の演奏。恒例の全体演奏は「マ



**校友会報  
第100号発刊記念!**

# 龍大川柳

**主催 龍谷大学校友会**



校友会報第100号記念として、「ずばり、お題を『龍大』として川柳を集めたら、卒業生、現役学生の目線は違うのだろうか、共通点はどんなことなのだろうか…」とワクワクしながらご応募を待ちました。

結果、卒業生99名、現役学生から166名のご応募をいただき、投句総数は1,966句にのぼり、選考委員会は嬉しい悲鳴をあげながら10句を選ばせていただきました。

応募いただいた川柳の印象は、卒業生、現役学生問わず、全体的に「やはり、まじめだなあ」という点でしょうか。そして、2,000句近いご応募があった中に、批判的な言葉がほとんどなく、人を思いやる言葉やほのぼのとした句が多かったことも龍谷大学で学生時代を送った、また送っている私たちの共通点なのかと感じた次第です。

# 大賞

## ありがとう 百縁夕食 本当に

お坊ちゃん／現役学生

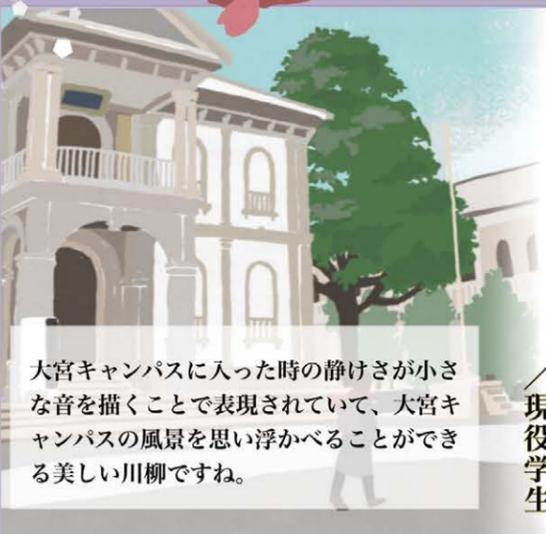


コロナ禍で、大学と親和会が学生の皆さんを想って企画した「百縁夕食」への感謝の気持ちが素直に伝わってきました。この「百縁夕食」は当時、新聞などにも取り上げられました。今はさらに発展し、「親和会サラダ」「百縁朝食」もでき、学生の皆さんの食生活を心配されている親心を感じます。

### 学生部門賞

## 大宮の 木の揺れる音 砂利の音

ありきたりにつき／現役学生



大宮キャンパスに入った時の静けさが小さな音を描くことで表現されていて、大宮キャンパスの風景を思い浮かべることができる美しい川柳ですね。

### 卒業生部門賞

## 龍大で 出会ったあの子が 今は妻

つつちー／卒業生



龍谷大学はカップルからご夫婦になる方が結構多いと聞きますが、皆さんの周りにもいませんか。龍大で出会って、その後の人生を共にされているなんて、素直に微笑ましい(うらやましい?)…。

### 学生部門賞

## 二十分 歩いてやっと 敷地外

ももけん／現役学生



瀬田キャンパスの広大さがユーモラスかつ実感を込めて表現されていて、「瀬田」の文字なく想像ができました。

### 卒業生部門賞

## 40代 未だ龍の字 二度見する

観月／卒業生



「二本だっけ?三本だっけ?」って一度は思ったことはありませんか?「龍」の字に…感じることはみな一緒と安堵する句かと思いきや、いえいえ、そうではありませんね、卒業しても「龍」の字に反応する卒業生の気持ちですね。

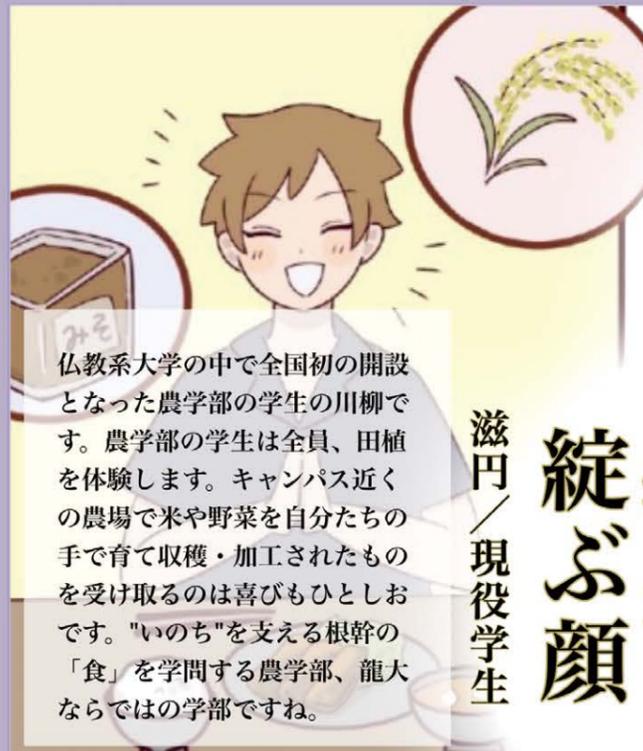
# 優秀賞



**打ち上げで  
増える友達  
減るお金**

あんまる／現役学生

打ち上げで友達の輪は広がるけれど、財布が寂しくなっていくという切り口、おもしろいですね。  
時代は変わっても、学生の悩みは変わらない。



**米や味噌  
もらおう学生  
綻ぶ顔**

滋円／現役学生

仏教系大学の中で全国初の開設となった農学部の学生は川柳です。農学部の学生は全員、田植を体験します。キャンパス近くの農場で米や野菜を自分たちの手で育て収穫・加工されたものを受け取るのは喜びもひとしおです。「いのち」を支える根幹の「食」を学問する農学部、龍大ならではの学部ですね。



**今日もまた  
逍遙の歌  
記憶ない**

はぐれ／卒業生

お〜仰ぎ見れば東  
名月は皓々と照り  
清水のせせらぎに明日の  
お〜

「逍遙の歌」に愛着を感じる人は多いはず。  
そして、「逍遙の歌」を歌う機会では飲みすぎることが多かった記憶が蘇ってきます。



**共生(ともいき)の  
教え心に  
生きて来た**

飛鳥若沖／卒業生

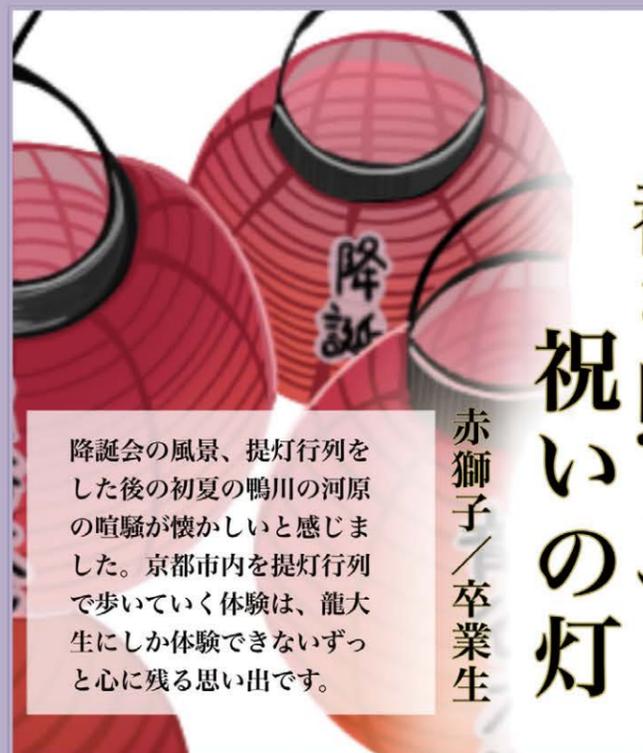
卒業してからも、「共生(ともいき)」の…と川柳に表してくれる卒業生から、龍大OBOGの心の支柱だったことを感じます。THE龍大!という川柳だと思います。

**イラスト担当**

**学術文化局  
美術部あーちすと会**

現在の活動はこちらからご覧になれます





**皐月夜の  
都を照らす  
祝いの灯**

赤獅子／卒業生

降誕会の風景、提灯行列をした後の初夏の鴨川の河原の喧騒が懐かしいと感じました。京都市内を提灯行列で歩いていく体験は、龍大生にしか体験できないずっと心に残る思い出です。

### 経済学部同窓会

#### 第9回ビジネスミーティングを開催しました

11月3日、第9回ビジネス・ミーティングを開催。AI活用のスペシャリストの國本知里氏(Cynthialy株式会社 代表取締役 CEO)に「生成AIで拓くキャリアとビジネスの新時代」と題してご講演いただきました。約120名の卒業生・学生が参加。参加者からは、「生成AIについて体系的に知識を深めることができました」などの感想をいただき、その後の懇親会も名刺交換が活発になされるなど大いに盛り上がりました。



### 国際学部同窓会

#### 2024年度 卒業生・恩師のつどいを開催しました

11月2日、深草キャンパスにて、5年ぶりに「国際学部(国際文化学部)同窓会~卒業生・恩師のつどい~」を開催しました。当日は、龍祭の模擬店も中止になるほどのあいにくの悪天候で、欠席された方も多くいらっしゃいましたが、お越しいただいたみなさまは久方ぶりの再会を喜び、終始とても和やかで楽しい時間を過ごされていました。このイベントは今後も隔年での開催予定です。国際学部、国際文化学部を卒業されたみなさま、ご都合がございましたらぜひご参加ください。



### 政策学部同窓会

#### 10周年事前イベントを開催しました

9月7日、深草キャンパスにて、政策学部設立10周年の事前イベント「(プレ)ミートアップ!2025」を開催しました。全国から100名を超える卒業生が集まり、9名の先生方に連続講義をいただき、その後は交流食事を楽しましました。社会人になった今だからこそ先生方のお話が心に響き、学び続けることの大切さにあらためて気づけたように思います。交流会では、世代を超えたコミュニケーションが生まれ、今年秋に開催予定の、「10周年記念フェス(仮)」に向けた良いネットワーキングの場になりました。今後もSNSなどで情報発信をしていきます。



### 法学部同窓会

#### 法学部同窓会 50周年記念事業を開催しました

11月16日、法学部同窓会設立50周年記念パーティーを「つながろうこれからも」と「ALL龍谷で」をコンセプトにホテルニューオオタニ大阪で開催しました。当日は、700名を超える卒業生、入澤学長をはじめとする教職員の方々も参加してくださいました。



第1部は、日本一の吹奏楽部の演奏と山本浩之アナウンサー(1985年法卒)の司会でスタートし、式典では東京オリンピック音楽監督の田中知之氏(1989年法卒)のトークショー。第2部のパーティーでは、2024年度龍谷賞を受賞された林家染二氏(1985年法卒)へのお祝い、バトン・チアSPIRITSの演舞、つじあやの氏(2000年文卒)のライブと盛りだくさんなプログラム。パーティーの締めくくりは、50年間を音楽で振り返る田中知之氏によるDJショーでは会場がディスコタイムに。世代を超えて大いに盛り上がりました。最後は「四弘誓願」のチャイムで大盛況のうちに幕を閉じました。今後も「同窓生がつながれる行事」を企画していきますので、法学部同窓会をこれからもよろしくお願いいたします。



#### 移動法律相談を今年も開催

9月29日、50周年事業の一環として学生法律相談部の無料相談を大学、実務家OBと共に鹿児島で開催しました。



### 農学部同窓会

10月27日、龍谷祭の2日目に瀬田キャンパスにて「農学部同窓会ホームカミングデー」を開催し、校友会や農学部同窓会の活動について報告させていただきました。会場の9号館大会議室にはお菓子やジュースをご用意し、卒業生、先生方が自由に歓談できる場としました。終始、温かい雰囲気の中で、それぞれの思い出話や近況報告があり、充実した時間となりました。また、校友会本部事業の「煩惱とクリエイティビティ」というイベントの一環で「あなたの煩惱を聞かせてください」というカードをお配り



したところ、参加者の皆さんが「抱えている煩惱」を書いてくださり、さらに盛り上がりました。2025年度も瀬田龍谷祭にあわせて新たなイベントを企画しております。情報は各種SNSで発信していきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 100周年記念事業

### 剣道部

12月14日、龍谷大学学友会体育局剣道部創部100周年記念式典が開催されました。本願寺聞法会館で物故者追悼法要が厳粛に執り行われた後、場所を京都東急ホテルに移して記念祝賀会が盛大に開催されました。

OB OG、現役学生、関係者の約250名が集まり、懐かしい再会や現役学生との交流に会場は笑顔で溢れました。

また、ご来賓として、龍谷大学入澤崇学長、校友会赤松徹真会長をはじめとする大学関係の皆さま、京都府剣道連盟副会長伊藤雄三郎先生(剣道範士)をはじめとする各剣道連盟の先生方ならびに他大学剣道部の先生方が、多数ご列席され大盛況となりました。

最後に、現役学生、監督

から力強い抱負が語られ、盛り上がりも最高潮に。剣道部歌、学歌を熱唱し、忘れられない記念式典となりました。

### 男声合唱団

10月6日、深草キャンパス顕真館で、男声合唱団100周年記念演奏会を開催しました。

当日は、約300名の団員OBや現役学生、家族、友人が集まりました。

龍谷大学男声合唱団は一九二一年(大正10年)「仏教大学声楽部」(翌年には「龍谷大学声楽部」に改称)として創設され、「仏教聖歌の研究・普及」という理念のもと、常に仏教聖歌を歌い続けてまいりました。

仏教音楽の歴史は古く、声明(僧侶が唱える声楽全般を指す言葉)に由来するものですが、そこに洋楽の手法を取り入れたものが仏教聖歌となりました。演奏され始めたの

は大正末期から昭和にかけてのことですので、仏教聖歌もこの頃から少しずつ作曲され、私達合唱団が先駆者として歌い継いだのだと思われま

す。時を経て、21年に100周年を迎えました。恐らく、数多くの大学合唱団でも100年の歴史を刻んでいる合唱団は多くはないでしょう。今回の演奏会は2年前から企画し実現した演奏会でした。私達は仏教聖歌をこよなく愛し、歌い続けてきましたので、それを合唱すること

で100年を振り返る新しい歴史の1ページになったと思います。(OBクラブ幹事長 菊地俊明)

支部の活動報告

40周年記念事業を開催

大分県支部

9月29日、日田市「パトリア日田」にて、設立40周年記念事業を開催。記念事業を検討していた頃、日田市教育委員会より「咸宜園教育研究センター公開講座」とのタイアップの提案をいただき、「龍谷大学心の講座」として開催しました。

大分県は広いので、参加者は大分市、別府市から乗車できる貸切バスで日田市・咸宜園に向かい、



まずは咸宜園を見学させていいただきました。その後、「咸宜園と西本願寺学林」というテーマで本願寺史料研究所研究員の小林健太先生(13年文院了)にご講演いただきました。

江戸時代後期に生まれた儒学者・廣瀬淡窓が開いた日本最大規模の私塾(学校)の「咸宜園」について学ぶという貴重なテーマで見学&講演会の充実した記念事業を満喫しました。

(支部長 田丸俊昭)

寝屋川市役所支部

(紫友会)

10月12日、深草キャンパスで40周年記念事業を開催しました。

第一部は、深尾昌峰副学長(政策学部教授)に、「地域が地域であり続けるために」をテーマにご講演いただきました。紫友会は、寝屋川市という地域に向きあうことが職務である職員の集りで、あらためて「地域に向き





新町三条を上がった東側。京町屋の趣をそのまま残した店構え。広々としたカウンスター席と、奥に続く通路は屋根までの吹き抜けで、「京のおくどさん」を連想します。二階席への階段も古民家そのまま、梁



校友のお店  
天ぷら呑み屋  
ツキトカゲ新町店

### おもてなしは若いころの 厳しい指導と経験から

たじま かずきさん  
田島 一生さん  
(95年経営卒)

や柱は当時のまま残されており、清潔感のある厨房や従業員の動線からも、お客様へのサービスを意識したこだわりを感じます。二条富小路の本店も同じ名前ですが、こちらのお店は天ぷらと創作料理が中心。大きな天ぷら鍋がカウンスター席の前にあるので、油の匂いが全くしないことから油を丁寧にあつかっていることが伺えます。注文した食材をひとつ

ひとつ丁寧に仕上げ、絶妙のタイミングで料理が運ばれてきます。店名のロゴは飲食店ではあまり見受けられない「とかげ」がモチーフですが、これは田島さんの思いつきで、とかげの尻尾を伸ばしてできた三日月から、「月」ととかげがで、印象的な「ツキトカゲ」のロゴが誕生しました。



町家そのものの外観

り熱心ではなく、音楽系サークルとアルバイトの日々を過ごし、当時住んでいた淀の「みどり荘」で、仲間が集まり語り合い飲み明かした日々が懐かしいとのこと。

そんな大学生活も留年が決まり、親からの援助がなくなり自力で卒業を目指すことになり、生活のために始めた飲食店でのアルバイト。それが今の仕事

に繋がっているそうです。当時のアルバイト先の店長がとても厳しい人で、悔しいと感じることもしばしばだったとか。

「いつかは自分で」の思いが叶ったのは、アパレル関係の方から相談を受け、「創作料理店」開店で店長を引き受けてからのことでした。店を任された経験を活かして30歳で独立。1店目の「ツキトカゲ」を京都地裁の近くでオープン。その後、先斗町に2店目をオープンされましたが、現在はリニューアルされた二条の本店と新町の2店舗で営業されています。



美味しい天ぷらとお店のロゴ

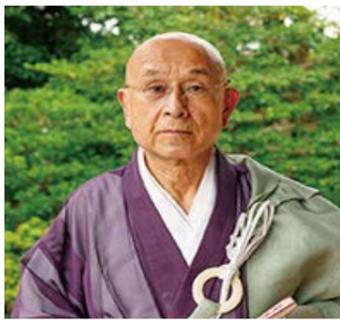
<p>天ぷら呑み屋 ツキトカゲ新町店</p> <p>京都市中京区新町通三条上ル 町頭町108</p> <p>地下鉄烏丸御池下車 6番出口から徒歩5分</p> <p>TEL 075-241-1108</p> <p>DINNER 17:00 ~ 23:00 (Lo22:00)</p> <p>定休日：月曜日*臨時休業あり</p>	<p>炭火焼鳥・旬野菜 ツキトカゲ本店</p> <p>京都市中京区二条通富小路東入ル 清明町672-2</p> <p>地下鉄京都市役所前下車 市役所出口から徒歩5分</p> <p>TEL 075-212-3550</p> <p>LUNCH 11:30 ~ 14:00</p> <p>DINNER 17:00 ~ 22:00 (Lo21:00)</p> <p>定休日：月曜日*臨時休業あり</p>
--	---

飲食へのこだわり。今後の田島さんの挑戦も楽しみになるお店です。

## 仏教に学ぶ

### 「一期一会」と「日々新たに」

臨済宗建仁寺派  
大椿山六道珍皇寺ご住職  
さかい だりょうこう  
坂井田 良宏



**プロフィール**  
46年京都府生まれ。70年龍谷大学経済学部卒業。卒業後、専門道場にて修業の後、25年間宇治市役所に奉職しながら73年に建仁寺塔頭、興雲庵住職に就任、96年より大本山建仁寺法務部長、財務部長を歴任し、01年から同、六道珍皇寺住職に転任。13年には臨済宗建仁寺派宗務総長に就任するとともに開山栄西禪師800年大遠諱の遠諱局長などを務め、現在は自坊の護持のほか建仁寺派の宗会議員や建仁寺の評議員などの要職にある。

六道珍皇寺の歴史  
六道珍皇寺は山号を大椿山と号し、臨済宗建仁寺派に属する寺院です。今から千二百年前、平安朝・桓武天皇・延暦年間慶徳僧都の開基で、宝皇寺、鳥辺寺、または愛宕寺とも称せられていました。その後平安遷都に際し、愛宕の地が諸人の墓所と定められたことに伴い、空海の師慶徳が珍皇寺を建てたといわれ、ついで空海が興隆して東寺の末寺となり、小野篁が檀越となつて堂塔伽藍が整備されました。永久年間(二二二~二二八)に一旦焼失した後、再び伽

藍整備も行われましたが、中世の兵乱により荒廃し、建仁寺の僧であった開深、良聡が再興、臨済宗建仁寺派に属する寺となりました。本尊の薬師如来坐像は最澄作と伝わる重要文化財ですが、去る22年の文化庁調査をうけて、24年の4月には30年ぶりの大修復作業も無事終了されました。時まさに、当寺の開基「佛海慈濟禪師」の650年遠諱の年となったことは、祖師のお導きと感慨無量でありました。ところで、この辺りです



薬師如来坐像

が平安時代の墓所として名高い鳥辺野の麓で入り口にあったことより、「六道の聖

「六道」とは、すべての人が生前における善悪の行いにより必ず赴くとされる「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上」の六種の冥界をいいます。当寺が、前述の通り「六道の辻」に位置し、さらには小野篁伝説(当寺の井戸より閻魔王の臣下として現世と冥界を往還していた)とあ

地となっているのは、こうした背景があるからです。「六道まいる」という行事  
京都では、お盆にお迎えする先祖の魂を「お精霊さん」と親しみを込めてよびます。そのお精霊さんにお盆に各家にお帰りのため、あの日この世の境(六道の辻)とされる当寺にお迎えに詣でる行事を「六道まいる」と申します。

千年の歴史を有する京都人の生活に根ざした宗派を超えた仏教共通行事といえます。現在では盆前の8月7・10日の4日間、早朝より夕刻まで大勢の参詣のお方で賑わいます。

参詣の仕方は、まず境内参道で高野槇を求められ、本堂にてお迎えされる精霊の戒名を水塔婆に書いてもらい、「古事談」や「今昔物語集」の伝説にある「その音がはるか彼方の唐の国まで、いんいんと鳴り響いた」とされる「迎え鐘」をつかれ、水塔婆への水むけ供養の後、参道で贖われたみ魂の宿られた高野槇を携え帰路につかれることとなります。

そのお精霊さんは、懐かし

し我が家への里帰りとなるわけですが、お盆の間は各家では十分に満腹してお帰りのため、お盆の日に決まった京風精進献立のご馳走などをもつてもてなすといった、誠にうるわしいこうした慣習が今日まで恙なく京には伝承されているのです。

二足のわらじと縁  
私自身は卒業後に教職をめざす関係上、在学中に休学して禅僧への関門ともいえる専門道場に掛搭し、卒業後に再度、再掛搭の後にその道を目指しましたが、僧侶との両立は立場的にも難しく、結果的には諦めざるをえませんでした。その後、ご縁があり公務員の職に就くこととなりましたが、在職25年頃に師匠の体調不良もあって奉職を退職との二足のわらじ生活にピリオドをうちました。奉職中では有難くも望んでいた教育・福祉・茶業関係の職場に携わらせていただき、私の人生において大きな一こまとなりました。

その後は、自坊の住職とご本山の内局務め、ある意味二足わらじの日々となり、二〇一四年には、建仁寺開山栄西禪師800年大遠諱との巡り逢いもございました。その折には、はからずも宗務総長と遠諱局長という大役を仰せつかり、浄財募縁に奔走もしましたが、お陰様にて茶祖とも称される栄西禪師さまのお導きか、役所勤めで出会った多くの茶業関係各位より絶大なご支援も賜ることができ、まさに「二期一会、人さまとの出会いがいかに大切なものか改めて思い知りました。」

「二期一会」と  
「日々新たに」  
この世に生をうけたからには、お釈迦様のおっしゃる通り、誰もが悩み苦しみを抱えているものです。仏様やご先祖様に手を合わせ「祈る」行為あるいは坐禅を組み、心を空っぽの状態「心」にして、自分を客観的に見ることで悩みの本質が見えてくることもあり、歩まれている人たちに相談し、その意見や考えを参考にすることも、悩み苦しみを解決の糸口につながるものです。



山門・六道の辻

ただいとおります。一期一会とも繋がるのですが、毎日心を新たにすることで自身も日々生まれ変わり、悩み苦しみを癒えて新たな考えや出会いも生まれるものです。日々の精進も新たな気持ちで続けることが出来ると思います。人との出会いを大切にしつつ、清々しい気持ちで一生一度しか出会えないその日々を大切に迎え、懸命に生きたいのであります。

### 編集後記

おかげさまで校友会報誌も通巻100号となりました。校友の皆さまの架け橋になればと編集に取り組みで参りました。今後も龍谷大学の校友会報誌らしく建学の精神を傳承してまいりたいと思っております。以前、小説「上杉鷹山」の著者童門冬二先生に面談した折、「日本国にとっても日本人にとっても、「忠恕」の生き方が非常に大切なのではないか」とおっしゃっておられました。心に残る一言でした。(校友会理事 清水卓智)

龍谷大学校友会 公式SNS

SNSを通じて色々な情報を発信していきますので、是非ご登録をお願いします。

Facebook | Instagram | X (旧Twitter) | LINE